



一般社団法人 日本LD学会  
Japan Academy of Learning Disabilities

# 会 報 第132号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：Nothing About Us Without Us.
- ・第8回研究集会（沖縄）開催報告
- ・〈連続講座1〉第11回 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト
- ・〈連続講座2〉第11回 GIGA スクール時代における特別支援教育
- ・委員会リレー企画 LD-SKAIP 委員会紹介
- ・PATIO ～実践の最前線～
- ・事務局からのお知らせ



## Nothing About Us Without Us.

神戸女子大学

田 中 裕 一

「楽しかった！」

「よくわかった！」

「うまくできた！」

「もっとやりたい！」

「もうちょっと考えさせて！」

教室から子どもたちの声が聞こえてきます。

そこには、鉛筆とノートを使って黒板を写している子もいれば、タブレットで入力しながら学ぶ子、パソコンでデジタル教科書を聞きながらうなずいている子、音声入力でパソコンに感想を書いている子もいます。椅子ではなくボールに座っている子もいれば、机のまわりを歩きながら問題を考えている子も…。

みなさんのイメージする教室の様子イメージはどんな感じでしょうか。

特別支援教育がスタートしてから、通常の学級に在籍する発達障害を含む障害のある子どもへの支援は進んできました。

また、「障害による差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が改正され、2024年4月から学校法人に対しても合理的配慮提供が法的義務となり、丸一年が経とうとしています。

さらには、2024年12月25日、文部科学大臣か

ら中央教育審議会に諮問がなされ、学習指導要領改訂に向けて動き出しました。

令和9（2027）年度には、小中学校の通級による指導の担当教員が定数化されます（子ども13人に対して教員一人の割合）。

制度は大きく変わってきてはいますが、私たちの考え方はパラダイムシフトができていでしょうか。そのひとつが「Nothing About Us Without Us.（私たちのことを私たち抜きに決めないで）」という障害者の権利に関する条約が採択される動きの中で、障害当事者がスローガンとして掲げていた言葉だと考えています。

私が最初にイメージした教室の様子も、学びに困っている子どもたちの思いや言葉からスタートすることが大切です。その思いや言葉を実現するために、私たちはここで学び続け、周囲に情報発信し続けることが重要です。

この会報が届くころは年度末です。来年度をひとつの大きな変化のスタートにするために、私たち一人一人が、それぞれの持ち場で、障害当事者と、隣の人と、地域の人と、そして学会と一緒に考え、協働し、地道に取り組んでいきましょう。